

1	審議会名	丸子地域協議会
2	日時	平成26年12月19日(金) 午後1時27分から午後3時00分頃まで
3	会場	丸子地域自治センター 4階 講堂
4	出席者	齋藤重一郎会長、丸山かず子副会長、池田佐代子委員、今井利樹委員、 内田弘子委員、小澤厚委員、工藤裕子委員、久保田和英委員、後藤有希委員、 清水三枝委員、下村晴一委員、関本吉人委員、塚越洋子委員、吉池美智恵委員、 吉田暘一委員
		【欠席委員5名】
5	市側出席者	片山丸子地域自治センター長、芹澤丸子地域自治センター次長兼地域振興課長、 北沢丸子地域教育事務所長兼地域政策課政策幹、清水市民生活課長、 高野健康福祉課長、芦田建設課長、丸山産業観光課長、滝沢上下水道課長、 矢島丸子学校給食センター所長 (事務局)翠川地域政策担当係長、清水統括主査、中山主査、竹花主査 (説明者)翠川政策企画課長、大矢課長補佐兼政策企画担当係長(説明後退室)
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	1人 記者 2人
8	会議概要作成年月日	平成27年1月6日

協議事項等

- 1 開会(芹澤センター次長)
- 2 会長あいさつ
- 3 第二次上田市総合計画策定における地域まちづくり方針見直しに係る諮問の事前説明について
：政策企画課
 - ・現在の第一次上田市総合計画が平成27年度で終了。本年度から第二次総合計画策定に入った。
 - ・総合計画の一部となる地域まちづくり方針の見直しにご協力をいただきたい。
 - ・見直しの考え方：現行の「地域まちづくり方針」を「地域の特性と発展の方向性」として見直す。
 - ・「地域の特性と発展の方向性」の位置づけ：地域住民と行政(市)が役割分担と協働でまちづくり。その共有認識。見直ししたものを元にして、地域において独自のまちづくり計画の策定。
 - ・見直しのスケジュール：1月の地域協議会で自治センター長から諮問し、直接御意見をいただく。2月の地域協議会で修正案に御意見をいただき、3月に最終案を作成し、最終確認いただく。3月27日に9地域の正副地域協議会長から市長に答申の予定。
 - ・以降、協議。
 - (委員1)行政でこのような地域まちづくりの方針の基本骨子が出来てしまうと、それに沿って地域経営会議が進んでいく印象を受けるが。
 - (本庁)地域まちづくり方針を見直したときに、地域の特性や発展の方向性という形で見直しをさせていただく。とりあえず今の段階で、地域と行政で認識を共有しておいて、更にこれを元に地域経営会議が出来た後に具体的計画をつくっていただきたい。
 - (委員1)今まで地域協議会で検討して、これからあるべきまちの姿のベースは無いという前提で話をしてきた。2月、3月で拙速に創り上げてしまって、それが市のベースですと言うのは若干違和感がある。拙速すぎないか。地域経営会議についての今までのやりとりの中の話とは若干違う。
 - (本庁)総合計画では、行政と市民の皆様の共有する方向性を示す。その一部として、地域の特性を踏まえた上での発展性の基本部分を総合計画には謳いこみたい。
 - (委員2)「共有して」という考え方、現実的に行政と考え方が違うこともある。前回、持ち寄り基金の説明の際、防災意識について質問した。市からは補助金も出ており、防災備蓄庫には防災備品が備蓄されているとの説明であった。しかし、マット類もなければ発電機すら無い。備蓄庫といえる設備すらない自治会もある。全て用意されているという行政との意識の違いを感じた。自治会によっても防災意識が違う。
 - (会長)今の御意見は、地域の中でしっかりやっていないといけないという問題提起だと思います。

4 協議事項

(1) 地域経営会議の設立について

・前回の地域協議会後の地域経営会議設立検討会において地域経営会議設立を承諾いただいているが、改めて地域協議会として決定をいただきたい。

丸子地域協議会において正式に地域経営会議の年度内設立を決定・承認。

(2) 平成 27 年度当初予算に係る持ち寄り基金充当予定事業について

・旧海戸団地敷地分譲事業について、事業費設計額が確定。前回示した概算の開発事業費 43,800 千円が 42,000 千円に、売却額が 45,700 千円あから 37,100 千円に修正。それにより不足額が 14,900 千円となり、その 2 分の 1 の 7,450 千円が地域負担額となる。

・信州爆水 RUN in 依田川について。平成 27 年度は第 20 回の記念大会。記念イベントに 50 万円増額し総事業費を 3,500 千円とし、増額分に持ち寄り基金を当てる。

・質疑・応答なし

(3) 市民活動団体交流会の日程変更について

・2月15日(日)への日程変更を決定した。座長に清水委員が選出される。

5 報告事項

(1) 分科会及び研究会での検討状況について

(ア) 公共交通に関する分科会

・ラッピング会社からのラッピング修正案について検討。

・1月の地域協議会に最終案を提出し、最終決定いただく予定。その後ラッピング発注を行い、3月には新デザインでの「まりんこ号」の運行予定。

(イ) 丸子地域の子育て支援に関する分科会

・12月16日に分科会開催。数箇所の公園視察のまとめを行った。

・公園のそばの駐車場があるといい。整備された公園トイレがほしい。

・子育てサロン利用者のお母さん方との懇談会を開催。地域に希望する支援の拾い上げを行いたい。

・ごみ排出日情報と子育て関係の種々の開催日などの情報が載せられたカレンダーについて。行政の迅速な検討が有難い。実現できるとよいと思う。

(2) 市役所の組織改正について

・市民生活課と健康福祉課を統合し市民サービス課を設置。健康福祉課の高齢者施策担当及び健康推進担当の職員を本庁の高齢者介護課と健康推進課の職員とし指揮命令系統を一本化。

・丸子の産業観光課の土地改良係を丸子建設課に移管。武石建設課を丸子建設課に統合し、丸子・武石建設課を設置。

・丸子地域自治センター内に丸子・武石上下水道課を設置。

・政策企画局が政策企画部になり、その下に「交通政策課」を設置。

・以下、協議。

(委員) 高齢者関係が本庁の管轄になるが、今まで丸子地域自治センターで判断できていたことが、本庁のお伺いをたてないと出来なくなるのか。

(行政) 直接的には、おっしゃるとおり。それぞれ独自の事業としてやっているものは限られている。

(委員2) 上田市消費生活センターが新設されるが、似た名称の機関が既にある。

(行政) 合同庁舎のそばにある上田消費生活センターです。こちらは、東信消費生活センターと改称予定。オレオレ詐欺など重要課題は連携して処理していく。上田市内の迅速な対応のために上田市消費生活センターが設置されます。

(委員3) 団地に住んでいる要介護者、その棟のほとんどが80歳代の住人という団地がある。自治会では班組織になっていて、その班ごとで自助・共助となるだろう。住宅担当に聞いたところ、公平性の観点からくじ引きで入居者を決めるので、若い人を優先して入居させることは出来ないとの事だった。また、片方では、要介護者のマップを作れという部署もあり、自助、共助でやってくれと言われる。行政組織の中では、どういう調整をしながら、そういった問題に対応していくのか。こういうケースが増えていく。

(行政) 丸子では、庁舎内に係長級のワーキンググループを設けて、各課題に対して対応している。全庁的にも、この組織改正に限らず、横断的な対応をしていきます。

(委員 3) 組織をスリム化すると、より一層そういったことが起こることを非常に心配している。職員の資質向上も大事だが、いろいろな問題意識を上にあげて、組織横断的に調整が図れるようにやっていただきたい。

(委員 4) 地元で行う工事について、建設課からくると地元負担金がかからなくて、土地改良担当に係ると地元負担金が発生するようなイメージがある。組織改正で土地改良係が一緒になると、どうなるのか。

(行政) 丸子建設課が土地改良部分を引き継ぎますが、業務内容や負担金については今までどおりです。

6 その他

(1) 上田市長瀬市民センター工事について

- ・耐震補強工事と空調設備設置工事を行う。2月28日までに完了予定。

(2) 次回以降の会議日程について

第10回協議会	1月27日(火)	午後1時30分	丸子地域自治センター4階講堂
第11回協議会	2月15日(日)		市民活動団体交流会(ふれあいステーション3階)
第12回協議会	2月24日(火)	午後1時30分	丸子地域自治センター4階講堂

(3) その他

・持ち寄り基金を使ったボンネット消防車復活事業について。12月1日に公開試験走行を行った。12月10日のNHKテレビ「イブニング信州」で試験走行の様子が放映された。他、新聞5紙に記事が掲載された。

・「丸子地域協議会だより」作成について。2月の広報と一緒に協議会だよりを見開きで2面で作りたい。編集委員として、内田委員、工藤委員、久保田委員、丸山副会長が選任。

7 閉会 (15:00 終了)

* 地域経営会議設立検討会：全体会終了後 15:15～16:30頃 第2会議室

* 公共交通に関する分科会：16:30～約30分程度 第2会議室